

認定 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第 151 号 (R6.3.11)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (メール info@ormz.or.jp) 文責：日高良雄



はじめに 今年も弥生 3 月となりましたね。花便りが各地から届いています。

さて、ORMZ ニュース第 151 号では、総会後の経過報告や巡回診療の様子、そして、巡回診療に同行された自治医大出身の新屋洋平先生のご報告（ザンビアの保健状況に関する統計資料も原文のまま掲載しています）などをお届けしますので、どうぞご覧ください。

昨年は、念願のヘルスポスト建設が完成しました。今後、資機材購入、搬入を経て、5 月もしくは 6 月には引き渡し式を行う予定です。当法人の活動にとって、大きな節目となります。皆様にはこれまでの多大なるご支援に心から感謝申し上げます。

会の経過報告等

- ・2 月 18 日の総会終了を受けて、22 日宮崎県及び宮崎市に各々報告書を提出してきました。
- ・また総会での議決を受け、これまでにご支援をいただいていた皆様宛に、今後の活動方針についてのご報告のお手紙をお出ししました。すでにお手元に届いているかと思いますので、どうぞご覧ください。

現地活動報告（山本ひとみ）

【巡回診療】

2 月 7 日 ルアノ

- ・診療数 146 名、マラリア陽性数 22 名中 6 名 妊産婦検診 28 名 道中の診察 0 名
- ・主な訴え、疾患等：気道感染症、皮膚疾患、胃腸炎、腰痛などからだの痛み、消化器疾患
- ・重症例、搬送例：なし
- ・予防接種の種類：OPV(経口ポリオ)：40, PCV(肺炎球菌)&DPT-HepB-Hib (五種混合：ジフテリア, 百日咳, 破傷風, B 型肝炎, ヒブ)：28, ROTA(ロタウイルス)：25, MRV(麻疹風疹)：13, IPV(不活化ポリオ)11, BCG：13
- ・道中、故障車が道をふさいでいた。前方に故障車があることを示すためか、木が切り倒されていたり、う回路がひどい状態だったり。移動に時間がかかってしまった。
- ・現地は雨季前のような暑さ。
- ・チペンビからファミリープランニング用の Depo も Sayana ももらえなかった。サンダラのほうから来ている人がいて、希望者は多かった。73 人は対応できたが、注射薬も錠剤薬もなくなり、治療ができなかった人もいた。
- ・コレラの啓蒙活動として、注意を呼びかける説明書、石鹼とクロリン (各 180) を配布した。



2月28日 ニャンカンガ

- ・診療数 108 名、マラリア陽性数 20 名中 2 名 妊産婦検診 14 名 道中の診察 0 名
- ・主な訴え、疾患等：気道感染症、腰痛などからだの痛み、皮膚疾患、胃腸炎、う歯(口腔内疾患を含む)、消化器疾患
- ・重症例、搬送例：なし
- ・予防接種の種類：OPV(経口ポリオ)& DPT-HepB-Hib (五種混合：ジフテリア、百日咳、破傷風、B 型肝炎、ヒブ)&ROTA(ロタウイルス):8, MRV(麻疹風疹):9, IPV(不活化ポリオ):2、PCV および BCG はワクチン無
- ・超音波検査受診:2 名。妊娠 6 ヶ月の女性は、聴診器で胎児の心音が確認できなかったため、超音波で胎児が無事なことを確認でき良かった。妊娠 6 か月のわりに、胎児は小さい様子であった。
- ・久しぶりの雨で水たまりが多かった。
- ・巡回診療市はさみしく、トマトを売っている女性が 2 名とフリッターを売っている女性 1 名がいたのみ。
- ・帰路、カミネンベ小学校 (Kaminembe Primary School) 付近でレンタカーが動かなくなった。ジャンプスタートでいったんエンジンはかかるが、アクセルを離すとエンジンは止まる。川は渡り終えており、道路は比較的良いところだったため、ムワプラヘルスポスト (Mwapula Health Post) までランドクルーザーでけん引して移動。Mwapura で再度ジャンプスタートを試みたが、状態は改善されていなかった。水がオルタネーターに入った様子。レンタカー会社に連絡を取り、すべての荷物をレンタカーに載せ、スタッフ全員ランドクルーザーに乗ってルサカに戻った。後、レンタカーは新しいバッテリーに変え、夜中 1 時過ぎにルサカに戻った。



枯れた農地の様子

巡回診療同行報告 (OHS 沖縄往診サポート 新屋洋平先生より)

はじめに：

この度は巡回診療への同行をお受け入れただき、有難うございました。私は自治医科大学 28 期卒業であり、山元先生の後輩となります。沖縄県の離島医療、緩和医療及び在宅医療や感染対策に携わってまいりました。今回、NPO 法人ロシナンテス (北九州市) の医療に関するスーパーバイザーとして 2 月中旬よりザンビアに滞在中に巡回診療同行の機会をいただきました。

巡回診療同行記：

2024 年 2 月 28 日朝の 6 時 10 分ころ、ドライバーのコリンズさんより着信があり、滞在しているアパートメントのゲート付近で合流。すでに助産師さん 1 名が乗られていた。その後山本さんをピックアップし、ニャンカンガに向けて出発した。ルサカ市内を起点にザンビア国内を東に走る『Great East Road』に乗り、ひたすら東へ向かう。チョングエの街なかで一旦休憩し、しばらく東へ進んだあと側道へ。ここからは未舗装道路となった。1 時間ちょっと走行し、途中で最近の雨でできた水たまりを通過したり避けたりしながらムワプラのヘルスポストに 8 時半ころに到着し、別に出発していた巡回診療スタッフを乗せた車両 (ランドクルーザー) と合流した。ムワプラヘルスポストには NPO 法人ロシナンテスによってマザーシェルターが建設されており、内部でトイレを借りることができた。このときは待機している妊婦さんはいらっしやなかった。ムワプラヘルスポストでは、Clinical Officer (準医師と訳されることもある) のヘブンさんが幼児用のワクチンとともに同乗し、ニャンカンガに向けて再出発となった。

ニャンカンガへの道のりは、ムワプラを出発後しばらくは畑や草原の中を疾走し、途中から丘陵のなかを走行していた。1 箇所、河川を横切る場面があった。道路状況が悪い箇所もあり、車両が揺れる場面が多かつ

たように記憶している。

ニャンカンガへは9時35分ころに到着。地域のボランティアさん数名とチェアマンの方がすでに待っており、車両から荷物をおろして巡回診療の準備を行う。建物は2016年にORMZさんが建設され、3部屋に分かれていた。一番右手が受付およびカルテ庫、薬局となっており、窓から受付及び診察後の処方薬の手渡し場所となっていた。受け付けや血圧や体温、体重測定は地域のコミュニティヘルスワーカー(CHWs: Community Health Workers)と住民保健委員会のメンバー(NHCs: Neighborhood Health Committees)がボランティアでされており、薬の手渡しや説明は看護師2名でされていた。建物の真ん中の部屋は診察室、この日はClinical Officer2名で対応されていた。左の部屋はMCH (Maternity Child Health) の部屋となっており、妊婦健診及びFamily planning (説明、避妊薬の処方及びデポ剤の注射実施) を助産師2名で受け持っていた。屋外では5歳以下乳幼児健診および予防接種が木影で実施されていた。

天気予報は雨の可能性が高いと示しており、実際に小雨がぱらつく天気となっていたせいか、普段よりは診療を受けに来る住民は少ないとのことであった。また、診察やMCHに来る住民の方は若い年代に見える方や乳幼児が多く、乳児を抱えた母親のなかには10代に見える方も多くいらした。15歳以下の年少人口が45%であるザンビアの実情を垣間見た気持ちであった。一方で高齢者の受診は少ないようで、在宅医療及び老年期医療を専らとしている私としては、地域の高齢者にどのような医療的な課題があるか把握したいと感じた。

この日の診察患者数は107名、予防接種は16名、マラリア検査は12名実施し3名陽性、妊婦健診及びFamily planningの人数は未確認であったが、妊婦健診の中で2名に対してムワプラのヘルスポストにNPO法人ロシナンテスが譲渡した超音波機器を用いてエコー検査が実施されていた。診察終了後もFamily planningの列が続いており、地域で避妊を希望する女性が一定数存在することは、女性の権利がザンビア社会でも尊重されていることを伺わせるものとして私に映った。

帰途は車両2台で前後しながら走行していたが、川を渡ってしばらくした時点で乗っている車両のエンジンがストップした。別の車両が走って行ってしまったため、携帯電話の電波が届かない山中で車が戻ってくることを期待しながらしばらく待機となった。その間にドライバーさんがエンジンを確認し、どうやらバッテリーの問題だと結論となった。別車両が戻ってきてジャンプスタートを試すも、一旦かかったエンジンはしばらくするとまた止まってしまった。そのため、ORMZさんが所有するトヨタと日立さんから寄贈されたランドクルーザーで牽引し、ムワプラのヘルスポストまで戻った。ムワプラからはランドクルーザーに定員ギリギリで乗車し、未舗装道路を1時間以上走行してGreat East Roadに合流、さらに1時間以上走行してルサカ市内にもどった。



感想：

ザンビアの人口増加率は、2008-2009年の3.5%をピークとして、2021は2.8%と鈍化傾向にあるが増加を続けている。人口増加の主な要因は、出生数の多さであると考えられる。女性1人あたりの出生率は1975年の7.39人をピークとして減少しており、2020年は4.38人となっている。人口増加のもう一つの要因は、平均余命の延長である。ザンビアの乳幼児死亡率は先進国と比較すると高値ではあるものの低下傾向にある。1980年から2000年代前半までのHIV蔓延による全死亡率増加をへて、近年ではHIVおよび結核対策の影響も関与し平均余命が60歳を超えて延長傾向にある。

(※ただし、2020年及び2021年はCOVID-19の影響で余命は短縮傾向を示していると思われ、また医療機関を受診しない死亡は統計に現れない可能性がある。)

ザンビアでは年少者～若年者を主体とした人口増加の局面にあり、主な死因(マラリア:確定、結核、循環器

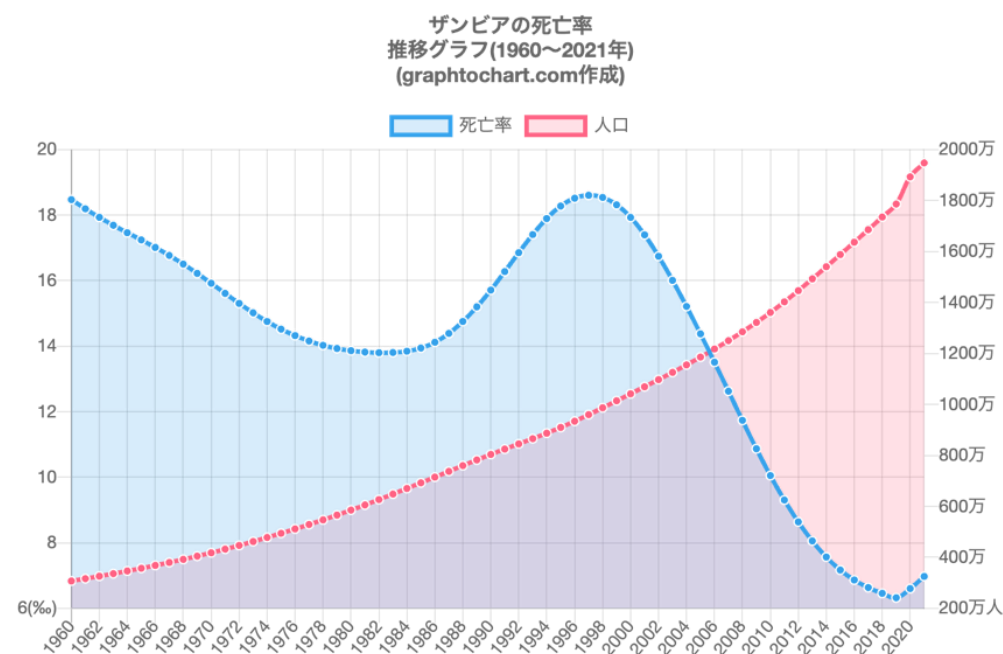
疾患、貧血、呼吸器感染症：肺炎）を鑑みると急性期医療のニーズが高いと思われる。医師の増加が追いついていない現状から、ザンビアでは地域のコミュニティヘルスワーカー（CHWs: Community Health Workers）と住民保健委員会のメンバー（NHCs: Neighborhood Health Committees）が短期の研修を受けたうえで保健活動に一定の役割を果たし、また Clinical Officer（準医師）が医師の権限を一部移譲されて地域のヘルスポスト、ヘルスセンターや病院等の医療機関で診療にあたっている。

ニャンカンガ地域における巡回診療を見学し、月1回の診療ではあるものの妊婦健診及びFamily planning、乳幼児検診および予防接種の提供に関しては行政と連携して地域における十分な役割を果たしているものと思われた。診察においても、現時点では慢性期疾患（高血圧、糖尿病等）の治療を受けている患者は少ないと思われたが、定期的な投薬については月1回の診療においても十分であろうと感じた。一方で急性期の医療に関して、実際の対応は診察時間内の対応に限られるが、診察を受けている患者は上気道炎等の急性疾患の方が多く、処方された薬剤をすぐには内服せずに保持して、実際に有症状時に内服するような住民も存在する可能性を想像した。また、診療終了後に地域のボランティア（CHWs:、NHCs）へマラリアの抗原検査キットおよび治療薬を配布しており、巡回診療の合間に発症したマラリアの患者への対応が可能となるように配慮されていた。

巡回診療に同行させていただいたことで、ザンビアのへき地医療の一端を垣間見ることができ、ザンビアの医療制度や課題について考察を深めることができた。今回、巡回診療への同行を受け入れていただき得難い貴重な機会をいただいた ORMZ ザンビア事務所山本様、山元先生を始め ORMZ の皆さまへ重ねて感謝申し上げます。

末筆ながら山元香代子先生、山本ひとみ様の御健勝と御多幸および ORMZ 様の益々のご発展を祈念いたしております。

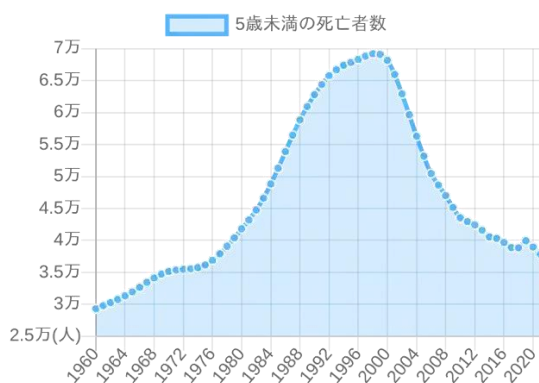
一般社団法人 OHS 沖縄往診サポート 新屋洋平



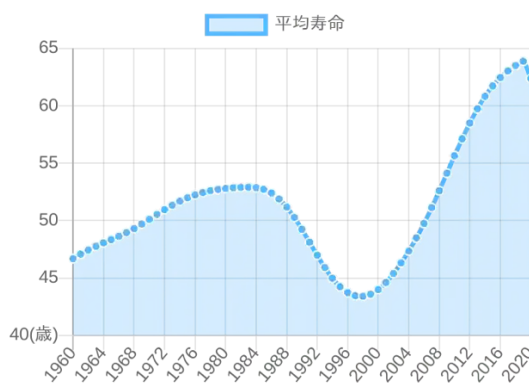
GraphToChart. 「グラフで見るザンビアの死亡率」. 最終更新:2023-12-24.

<https://graphtochart.com/population/zambia-deathrate.php>(参照日時:2024-02-29)

ザンビアの5歳未満の死亡者数
推移グラフ(1960～2021年)
(graphtochart.com作成)

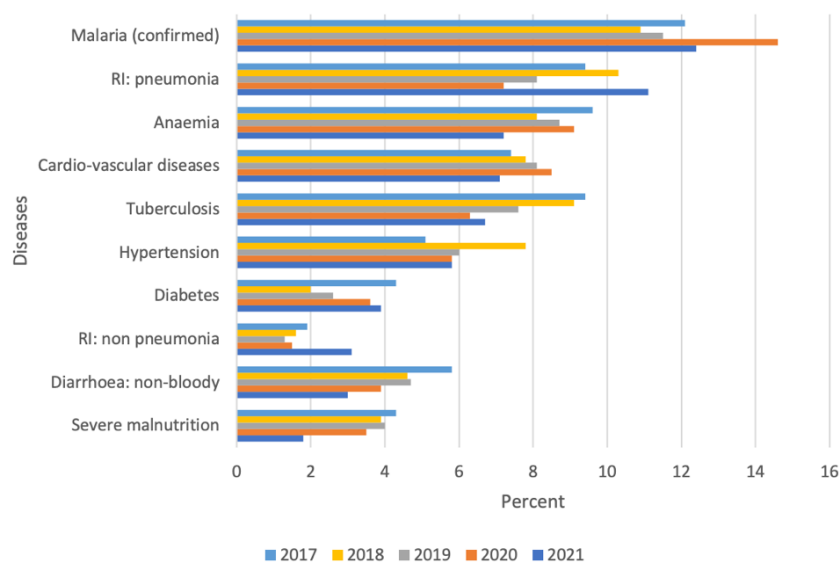


ザンビアの平均寿命
推移グラフ(1960～2021年)
(graphtochart.com作成)



6.1.2.1 TRENDS IN MORTALITY

Figure 6-3: Percentage contribution of the top ten causes of mortality to the total deaths, Zambia 2017-2021



Republic of Zambia Ministry of Health : ANNUAL HEALTH STATISTICAL REPORT 2017-2021 Pg. 94

(原文のまま掲載)

賛助会費・ご寄附の納入は辞退します

・2月に開催しました総会にて本年中の法人解散の方針が決まりました。なお、これまでいただいたご寄附等による正味財産が多額であることから、今年の賛助会費、ご寄附は辞退します（不要となりました）ので、ご理解くださいますようお願いいたします。

多くの皆様のご支援に心から感謝申し上げます。